



幼児の抽出検査

京都市保育會

一九二六年に獨逸の「ミュンヘン」で第九回實驗心理學大會が催されました。其の時「ライプツヒ」大學の「フォルケルト」氏は實驗兒童心理學の進歩と言ふ題目で種々な實驗の御話をなさいましたをうてございます。そのお話の中の一つに次の様な實驗がござります。

其れは「ザンデル」といふ人が指導して、「ハイス」といふ人が行つた實驗らしいでございますが、先づ種々の形の一色の積木を並べて一つの圖形を造り、之は圖版第三の第四圖に示されて居るやうな意味のものですが勿論之とは全く異つて居ます、その中で一つの積木だけを取り除いて置きます。便宜上かうして出來た圖形を甲と呼んで置きます。次に圖版第三の第三圖及び第四圖に示されて居るやうな二通りの圖形（多少之とは異つて居ますが）、即ちまとまつた形を持つて居ない圖形と、まとまつた形を持つてゐる圖形とを矢張り積木を並べて造ります。此の中前のを乙、後のを丙と呼んで置きます。そこで甲の中の缺けて居る一つの積木を乙及び丙の中から探し出させて、圖形を見せてから探し出す迄の時間を

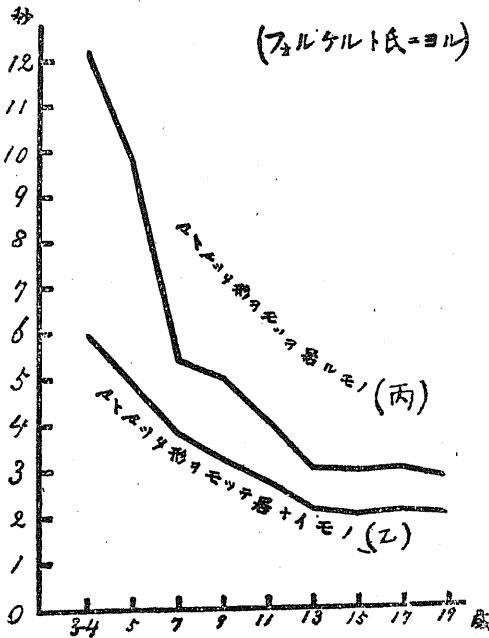
測つて、(乙)の場合と、(丙)の場合とを比較したので御座います。その結果は圖版第一に示した様になつて居ります。縦の線は所要時間、横の線は年齢を表して居ります。此の結果を御覽になれば分ります様に、(一)まとまつた形を持つたもの即ち(丙)から探し出す方が、まとまつた形を持つて居ないもの即ち(乙)から探し出すより長い時間がかゝつて居ります。

(二)(丙)の場合の所要時間と(乙)の場合の所要時間との比は年齢と共に増して居ります。

以上の様な實驗に暗示を得まして、私等は全然同じもので(但し積木を用ひず)二種類の圖(圖版第二、圖版第三)を描きました。(第一圖(甲)第三圖(甲)はまとまつた形を持つて居るもの、第二圖(乙)第四圖(乙)はまとまつた形を持つて居ないもの)検査の方法を簡單に申しますと、此の二種の圖の中から、これと同じもの(丙)を出来るだけ早く、間違へ無い様に探し出して、指で押へてくれる様に注文して、圖(第一圖(甲)又は第二圖(乙)等)を見せてから指で押へる迄の時間をストップブウォッチで測つたのでございます。(と申せばおわかりになります様に獨逸で行ひましたのはその方法がずつと簡單になつて居ります)。最初この本検査に移る前に教示と、する仕事とを了解させるために、他の二つの圖形で二度練習をさせました。始め第一圖(甲)と、(丙)を紙で蔽ふて置いて、(丙)を先に開けて、これ(丙)と同じものが、さちつと同じものがこちら第一圖(甲)の中の何處かにきつとありますから、それを探し出して指で押へるのですと申して第一圖(甲)の紙をとつたのでございませう。

第一版 解答所要時間

(フォルケルト氏=ヨル)

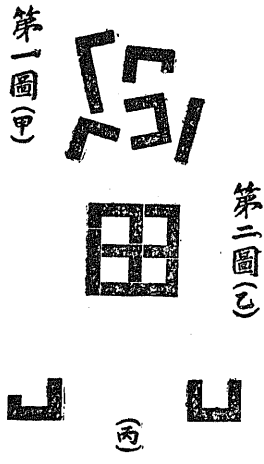


この解答所要時間が果して前に申しました「フォルケルト」の實驗結果と等しいやうになるかどうか、を檢查しようとしたのでございます。

「フォルケルト」のは前述の通り單に時間だけを問題にしたのでございますが、私等はその他にも、間違へて押へたもの、數、及び見直したものの數をも調査する事に致しました。間違へて押へたものとは、この中第一圖(甲)からこれ(丙)を探し出す筈であるのを、間違へて他の形を押へたものであり、見直したものととは、始めこれ(丙)を見せて置いて、これを第一圖(甲)から探し出させやうとする時に、もう一度これ(丙)を見直したものでございます。

の園兒千三百八十六人に就いて、一齊に同一方法をとつて行ひました。その結果を一々左の如く統計表に表しました。表は年齢別は勿論、他に實際保育上の參考として、男女別及び保育年限別にも表して見ただのでござります。

圖 版 第 二



第二圖(乙)

第一圖(甲) マトマツタ形ヲ持ツテナイモノ

第二圖(乙) マトマツタ形ヲ持ツテ居ルモノ

(丙)之ヲ前ノ圖カラ探シ出スノデス

第三圖(甲) マトマツタ形ヲ持ツテ居ナイモノ

第四圖(乙) マトマツタ形ヲ持ツテ居ルモノ

(丙)之ヲ前ノ圖カラ探シ出スノデス

次の圖版第四(1)(2)(3)(4)何れも圖の種類別に依つて表した
もの、横の線の第一圖第二圖第三圖第四圖とあるは、何れ

も圖版第二及び圖版第三の各々を表してあります。即ち黒

の線は第一圖(甲)及び第三圖(甲)(マトマツタ形ヲ持ツテ

居ナイモノ)、白の線は第二圖(乙)及び第四圖(乙)(マトマ

ツタ形ヲ持ツテ居ルモノ)、五番目の黒線は第一圖と第三圖

との平均で、六番目の白線は第二圖と第四圖との平均でこ

とあります。

結果としては、まとまつた形を持つて居るものから抽り

出した方が、餘計に時間がかゝつて居り、又解答不能のものも、間違へたもの、數も、見直したもの、

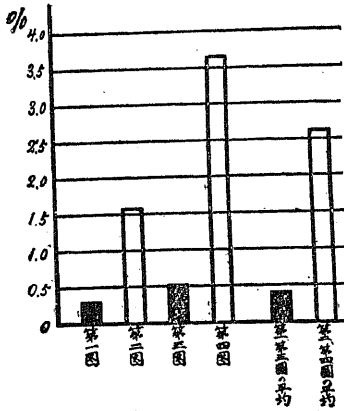
圖 版 第 三



第四圖(乙)

圖 版

(2) 解答不能兒數百分率
(圖種類別)



第 四

(1) 解答所要時間
(圖種類別)

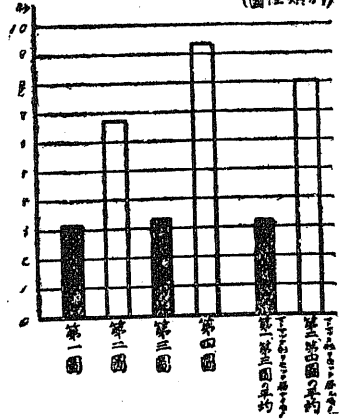
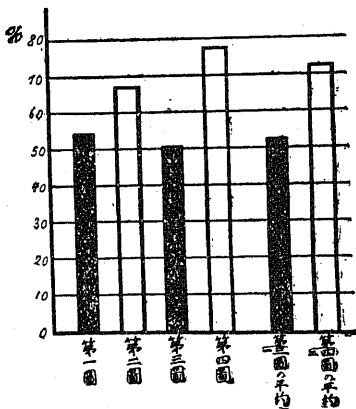


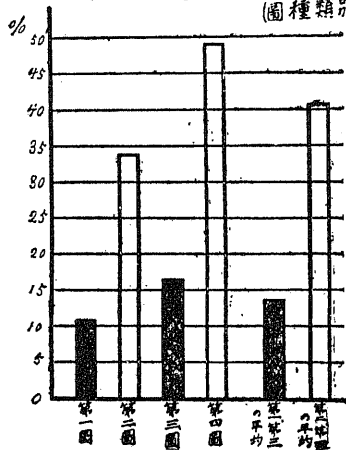
圖 版

(4) 見直した兒數百分率
(圖種類別)



第 四

(3) 不正解答兒數百分率
(圖種類別)



數も、まとまつた形を持つて居るものの方が、多い事が分ります。

(1) 解答所要時間

縦ノ線ハ解答所要時間(秒單位)ヲ表ス。第一圖ト第三圖ノ平均三、二八トナリ。第二圖ト第四圖ノ平均八、〇三ヲ要シテキマス。

(2) 解答不能兒百分率

縦ノ線ハ解答不能兒數ノ%ヲ表ス。第一圖ト第三圖ノ平均〇、四一トナリ。第二圖ト第四圖ノ平均二、六〇トナソテキマス。

(3) 不正解答兒數百分率

縦ノ線ハ不正解答兒數ノ%ヲ表ス。第一圖ト第三圖ノ平均一三、七一トナリ。第二圖ト第四圖ノ平均四一、三三トナツテキマス。

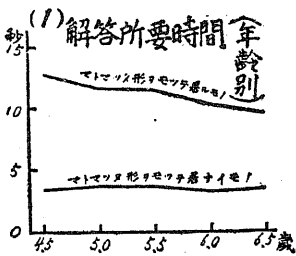
(4) 見直シタ幼兒數百分率

縦ノ線ハ見直シタ幼兒數ノ%ヲ表ス。第一圖ト第三圖ノ平均五二、六八トナリ。第二圖ト第四圖ノ平均七二、〇七トナツテキマス。

(1) 解答所要時間

(年齢別) 受験時ヲ中心ニシテ半年宛デ別ケマシタ。

第五版圖



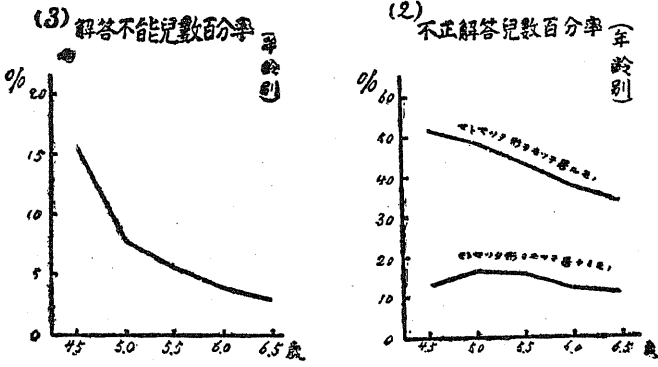
縦ノ線ハ解答所要時間(秒單位)ヲ表ス。

横ノ線ハ四歳半カラ六歳半マデノ年齢ヲ表ス。

上ノ線ハマトマツタ形ヲ持つて居ルモノカラ抽リ出シタ時間デ、下ノ線ハマトマツタ形ヲ持つて居ナイモノカラ抽リ出シタ時間デス。

矢張り「フォルケルト」氏の表と同じく、まとまつた形を持つて居るものから抽り出した方が長い時間がかゝり、又年齢を増すに従つてまとまつた形を持つて居ないものから抽り出す時間に較べて、より多く時間が

減つて來て居る事も分ります。



(2) 不正解答兒數百分率(年齡別)

縦ノ線ハ不正解答兒數ノ%ヲ表ス。

横ノ線ハ四歳半カラ六歳半マデノ年齢ヲ表ス。

上ノ線ハマトマツタ形ヲ持ツテ居ルモノカラ抽リ出シタ方。

下ノ線ハマトマツタ形ヲ持ツテ居ナイモノカラ抽リ出シタ方。

コノ間違ヘテ押ヘタモノモ年齢ニ依ツテ差ガアリマス。

即チ

年齢	種類	
	マトマツタ形ヲ持ツテ居ルモノ	マトマツタ形ヲ持ツテ居ナイモノ
4.5	51.74	12.79
5.0	43.84	16.37
5.5	43.15	15.51
6.0	37.35	11.95
6.5	33.45	10.79

(3) 解答不能兒數百分率(年齡別)

縦ノ線ハ解答不能兒數ノ%ヲ表ス。

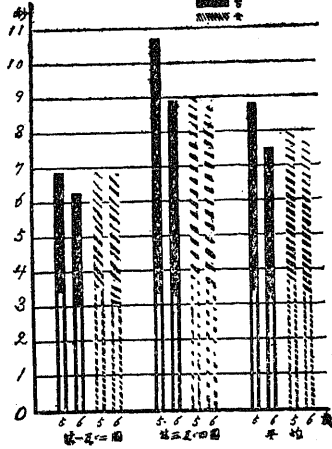
横ノ線ハ四歳半カラ六歳半マデノ年齢ヲ表ス。

不能ノモノモ年齢ヲ増スニ從ツテ減ツテ居マス。

(1) 解答所要時間(男女別)

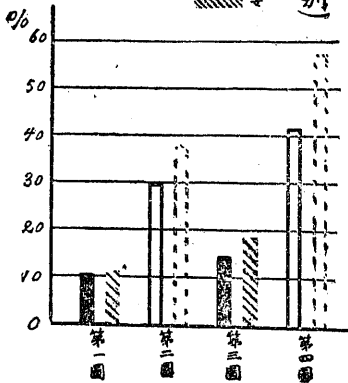
圖版第六

(1) 解答所要時間(性別)



圖は長く時間がかゝつて居ます。女は男に比して、所要時間が早い様にも見えますが、男は年齢を増すに従ひ進歩の度(この場合にも矢張り進歩はまとまつた形を持つて居る方についてです)が早く、平均の男五歳と男六歳の線は相違がありますのに、女は五歳と六歳とは餘り變りが見えませぬ。

(2) 不正解答兒數百分率(男女別)



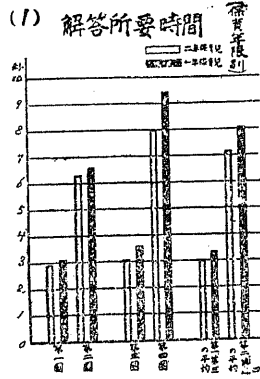
(2) 不正解答兒數百分率(男女別)

縦ノ線ハ不正解答兒數ノ%ヲ表ス。

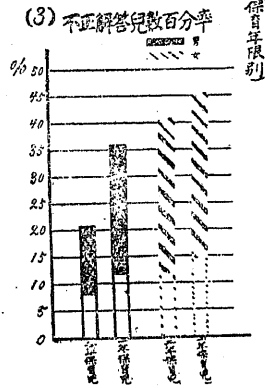
横ノ線ハ第一圖(甲)第二圖(乙)第三圖(甲)第四圖(乙)ヲ表ス。

黒ノ線ハ男、他ノ線ハ女。即ち間違へて押へたモノ、數モ第一圖ト第三圖ハ少ク、第二圖ト第四

第七版



第七版圖



(1) 解答所要時間 (保育年限別)

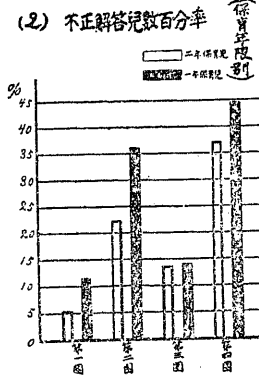
縦ノ線ハ解答所要時間 (秒単位) ヲ表ス。

横ノ線ハ第一圖 (甲) 第二圖 (乙)

圖トハ多クナツテ居マス。

又男兒ヨリ女兒ニ多クナツテ居
マスノハ注意致サナケレバナリ
マセン。

第七版



ノ平均ヲ表シ白ガ二年保育兒デス。
年齢ハ六歳ト六歳半ノモノバカリデス。
各圖トモ一年保育兒ノ方ガ長イ時間ヲ要シテキマス。

(2) 不正解答見数百分率 (保育年限別)

縦ノ線ハ不正解答見数ノ%ヲ表ス。

横ノ線ハ圖ニ依ツテ前同様ニ表シテアリマス。

間違ヘテ押ヘタモノモ二年保育兒 (白) ヨリ一年保育兒 (黒) ノ方ニ多イヤウデス。

(3) 不正解答見数百分率 (保育年限別及男女別)

縦ノ線ハ不正解答見数ノ%ヲ表ス。

横ノ線ハ二年保育兒及一年保育兒ヲ表ス。

黒ハ男、他ハ女デ男女トモ塗ツテナイ所ハマトマツタ形ヲ持ツテ居ルモノトマトマツタ形ヲ持ツテ居ナイモノトノ差デス。

不充分ながら以上説明致しました所によりまして、大體私等の行ひました検査の結果を御了解頂けましたかと存じます。要するに前述致しました「ハイス」氏の實驗の結果が以上のことによりまして單に所要時間の上にはばかりでなく、解答不能者の數、見直したものの數の上でも立證されて居ります。

肩 た た き

母さん お肩をたたきませう

タントン タントン タントントン

眞赤な罌粟が笑つてる
タントン タントン タントントン

母さん 白髪がありますね

タントン タントン タントントン

母さん そんなにいい氣もち
タントン タントン タントントン

お縁側には日がいつばい

タントン タントン タントントン

——白秋「我家の人々」より——